

## 大学評価学会第9回全国大会を開催しました

大学評価学会は2012年3月10日、11日の2日間にわたって、『『質保証』を問い直す－発達保障からのアプローチ－』のテーマのもとに第9回全国大会を開催しました。

大会初日には、広渡清吾氏（専修大学、前日本学術会議会長）が「東日本大震災・原発事故と社会のための学術」と題して記念講演を行い、日本学術会議の取り組みを紹介されるとともに、学術と社会との関係について説明されました。

記念講演に続いて開催されたシンポジウムでは、藤田英典氏（共栄大学）をお招きし、「大学教育・教養教育の現代的課題とその評価・質保証の在り方について」のテーマでご報告いただきました。また、渡部昭男氏（神戸大学）が『『発達保障』50周年と『Right to Development』－大学評価学会の掲げる『学生の発達保障を可能にするような教育・研究のありよう』とは－』のテーマで報告されました。お二人の報告を受けて、植田健男氏（名古屋大学）、碓井敏正氏（京都橘大学）がコメントを行い、引き続きフロアの参加者を使った議論が行われました。

分科会は、初日（10日）の午前中に開催された第1分会（会員自由論題報告会）を含め、四つの分科会が開催されました。今回は、「学校評価から学ぶ」（第2分科会）というテーマで、中等教育段階までの評価を視野に入れた分科会が開催されるなど、新たな試みも行われ、それぞれの分科会で活発な議論が行われました。11日の午前中に開催された第2分科会の閉会時に、東日本大震災での犠牲者を追悼し、黙祷を行いました。

分科会の様子についても、学会年報『現代社会と大学評価』に掲載する方向が確認されており、分科会における報告（概要）については、年報、第8号の刊行をお待ちください。

さて、大会初日に開催された会員総会で、第V期の理事20人が選出されました。2日目のお昼に開催された理事会では、以下の役員が選出されました（敬称略）。

代表理事 植田健男（名古屋大学、教育経営学）  
海部宣男（放送大学、天文学）  
副代表理事 橋本 勝（富山大学、大学教育論・経済統計学）  
日永龍彦（山梨大学、教育学）  
事務局長 渡部昭男（神戸大学、教育行政学）

また、会員総会では、第2回田中昌人記念学会賞の選考委員会（植田健男委員長）から、日永龍彦会員（山梨大学）と細川孝会員（龍谷大学）を受賞者とするのと授賞理由が述べられました。

第9回全国大会には2日間で63名（実参加）の参加がありました。懇親会には27名の参加がありました。初日は小雪がちらつくなど、あいにくの天気でしたが、岡山茂大会実行委員長の行き届いたご配慮で、快適な2日間を過ごすことができました。開催校である早稲田大学に改めて感謝申し上げます。

（文責：事務局）